病害虫対策資料第10号

佐農技防第 384号
令和８年７月30日

各関係機関長　様

佐賀県農業技術防除センター所長

果樹カメムシ類のヒノキ球果からの離脱時期

本年はチャバネアオカメムシやツヤアオカメムシ等の果樹カメムシ類（図１）の発生が平年より多く、5月12日付け病害虫対策資料第4号、7月13日付け病害虫発生予察注意報第3号を発出して防除対策の徹底を図ってきたところです。

果樹カメムシ類はヒノキやスギの球果を餌として生育しますが、本年は、このヒノキ球果が餌として不適となる時期が平年より早く、8月2半旬頃と予想されます。そのため、果樹園へ8月2半旬頃以降に飛来し、被害を及ぼすおそれがあります。

ついては、今後も引き続き果樹カメムシ類の動向に注意し、果樹園への飛来が確認された場合は、下記事項を参考に早急に防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

図１　チャバネアオカメムシ（左）とツヤアオカメムシ（右）

記

１.発生状況および今後の発生予想

１）ヒノキ球果の着果程度（着果スコア）

本年のヒノキ球果の着果程度（着果スコア）は、3.4（平年3.8、前年4.9）と平年並であった。

２）ヒノキ球果の果樹カメムシ類による口針鞘（刺し痕）数

７月15～21日に、県内11地点からヒノキ球果を採集して調査した結果、球果１果当たりの口針鞘数は8.6本（平年1.9本、前年0.4本）と平年より多く、最も多い地点では39.8本であった（図２、３、表１）。

（※ ヒノキ球果の口針鞘数が1果当たり25本を超えると餌として不適となるため、果樹カメムシ類はヒノキ球果から離脱するとされている。）

３）寄生成・幼虫数

ヒノキ球果での果樹カメムシ類の寄生虫数を調査した結果、寄生虫数は48.9頭（平年11.5頭、

前年2.8頭）と平年より多く、幼虫も多数確認された（表１）。

以上のことから、果樹カメムシ類は早い地域ではすでにヒノキから離脱し始めており、県平均では８月２半旬頃からヒノキから離脱して果樹園へ飛来すると考えられる。

図２　ヒノキ球果

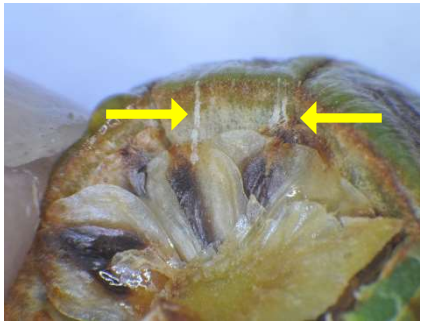

図３　果樹カメムシ類の口針鞘（刺し痕）

表1　ヒノキ球果における果樹カメムシ類寄生数及び口針鞘数（7月15～21日調査）

No.	調査地点	ヒノキ球果における寄生状況[1]			口針鞘数[2]	離脱予測時期[3]（各調査日から算出）	ヒノキ球果[4]着果程度	着果スコア
		成虫	幼虫	合計	7月下旬			
1	上峰町堤	－	－	－	－	－	極少	1
2	神埼市脊振町倉谷	－	－	－	－	－	極少	1
3	小城市三日月町織島	4	21	25	12.5	7月6半旬頃～	中	4
4	唐津市佐志	5	18	23	2.9	8月6半旬頃～	やや少	3
5	唐津市浜玉町平原	－	－	－	－	－	極少	1
6	唐津市北波多成淵	103	1	104	2.9	8月6半旬頃～	中	4
7	伊万里市大川町川西	29	61	90	4.8	8月5半旬頃～	やや少	3
8	伊万里市南波多町谷口	35	32	67	11.6	7月6半旬頃～	中	4
9	伊万里市南波多町笠椎	33	12	45	8.0	8月2半旬頃～	中	4
10	多久市南多久町	17	5	22	2.3	8月6半旬頃～	やや少	3
11	鹿島市飯田	21	14	35	5.4	8月5半旬頃～	やや少	3
12	鹿島市音成	10	45	55	39.8	離脱時期を迎えた	やや多	5
13	太良町江岡	35	15	50	3.0	8月6半旬頃～	多	6
14	太良町大浦	18	4	22	1.8	9月1半旬頃～	多	6
	平均	28.2	20.7	**48.9**	**8.6**	**8月2半旬頃～[5]**	－	**3.4**
	平年	－	－	11.5	1.9		－	3.8
	前年（R7年）	－	－	2.8	0.4		－	4.9

1)たたき落とし法による調査。上峰町堤、神埼市脊振村倉谷、唐津市浜玉町平原はヒノキの着果が少なかったのでたたき落としは行っていない

2)口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ球果が餌として不適となりカメムシがヒノキ球果より離脱する傾向が認められている

3)各調査日における口針鞘数～離脱予想時期(25本/果に達する時期)の平均値より算出

4)ヒノキ球果着果程度：福岡総農試の達観調査法に基づいて調査

・極少（着果スコア1）：一部の木では上部にも球果が見られるが、多くの木では上部にも球果がない
・少（着果スコア2）：球果が全くない木も見られるが、多くの木の上部には球果がある
・やや少（着果スコア3）：球果が全くない木も見られるが、多くの木の上部には球果があり、一部の木では中央部にもみられる
・中（着果スコア4）：中央部まで球果が見られる木が多い
・やや多（着果スコア5）：多くの木では中央部までたくさんの球果が見られ、一部は下部にも球果がある
・多（着果スコア6）：下部まで球果が見られる木が多い
・極多（着果スコア7）：ほとんどの木で下部までたくさんの球果が見られる

5)離脱予想時期の県平均は、各調査日及び口針鞘数の平均値により算出

※ヒノキ球果での寄生虫数、口針鞘数は地域等により差が大きいため、各調査地点の結果が必ずしも当該地域全体の状況を示すものではない

２．防除対策

１）果樹カメムシ類の果樹園への飛来状況は地域や園地によって異なるため、園内外をこまめに見回り早期発見に努める。

２）果樹カメムシ類は集合フェロモンを放出して同種を誘引し、集団で加害するため被害が大きくなる。そのため、果樹園への飛来を認めたら、早急に合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を散布する。防除薬剤は「佐賀県病害虫総合防除計画」を参照する。

３）合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤の残効期間は10～15日程度である。なお、ネオニコチノイド系薬剤は30～50㎜程度の降雨で防除効果が低下する。この残効期間を過ぎた後や、ネオニコチノイド系剤散布後に30～50㎜程度の降雨があった後は、必ず園内をこまめに確認し果樹カメムシ類が確認されたら薬剤を再散布する。

４）施設栽培では、開口部に防虫ネット（4ミリ目以下）を設置する。

５）防風樹または果樹園周辺に植栽されたヒノキ・スギに餌となる球果が結実している場合は、結実部を剪除する。

６）今後の発生状況については、当センターが発表する各種情報及びホームページを参考にする。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター　病害虫防除部
〒840－2205　佐賀市川副町南里1088
TEL　(0952)45－8153　FAX　(0952)45－5085
Mail　nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

防除ｾﾆ次元ｺｰﾄﾞ　防除計画二次元ｺｰﾄﾞ

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html

病害虫総合防除計画掲載アドレスhttps://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html